

桐生商工会議所管内
景況調査報告書

第140回

(2023年1～3月期)

令和5年5月

桐生商工会議所
桐生中小企業相談所

調 査 要 領

1. 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。
2. 調査時点 2023年3月1日
3. 調査期間 2023年1～3月期
4. 調査対象企業数 380企業（うち回答企業数136企業）
5. 調査対象業種
- ①建設業（回答企業数21企業）
建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他
- ②商業・サービス業（回答企業数54企業）
卸売業、小売業、飲食業、サービス業
- ③製造業
- 機械金属関連業（回答企業数35企業）
鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他
- 繊維工業（回答企業数26企業）
撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

DIとは、ディフュージョン・インデックス（D i f f u s i o n I n d e x）の略で、このDIの変化を分析することにより経済動向の判断を行います。このDIは、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス（+）となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス（-）となります。DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。

1. 景況の動き

【業況DI】

今期の業況DIは、全体で**-19**。前期（-22）比は+3ポイントとなった。また前年同期（-30）比では+8ポイントとなった。

業種別では、**建設業-14**（前期比-1、前年同期比-18）、**商業・サービス業-34**（前期比+17、前年同期比+22）、**機械金属製造業-15**（前期比-15、前年同期比-12）、**繊維製造業+4**（前期比±0、前年同期比-26）となっている。

【採算DI】

今期の採算DIは全体で**-30**。前期（-28）比は-2ポイント、前年同期（-39）では+9ポイントとなった。

業種別では、**建設業-52**（前期比+9、前年同期比-9）、**商業・サービス業-40**（前期比+14、前年同期比+19）、**機械金属製造業-18**（前期比-24、前年同期比-14）、**繊維製造業-12**（前期比-16、前年同期比+10）となっている。

【来期業況DI】

来期の業況予測DIは全体で**-18**。前期（-24）比では+6ポイント、前年同期（-19）比では+1ポイントとなった。

業種別では**建設業-5ポイント**（前期比+18、前年同期比+5）、**商業・サービス業-32ポイント**（前期比+2、前年同期比±0）、**機械金属製造業-24ポイント**（前期比-42、前年同期比-40）、**繊維製造業+16ポイント**（前期比+21、前年同期比+48）となっている。

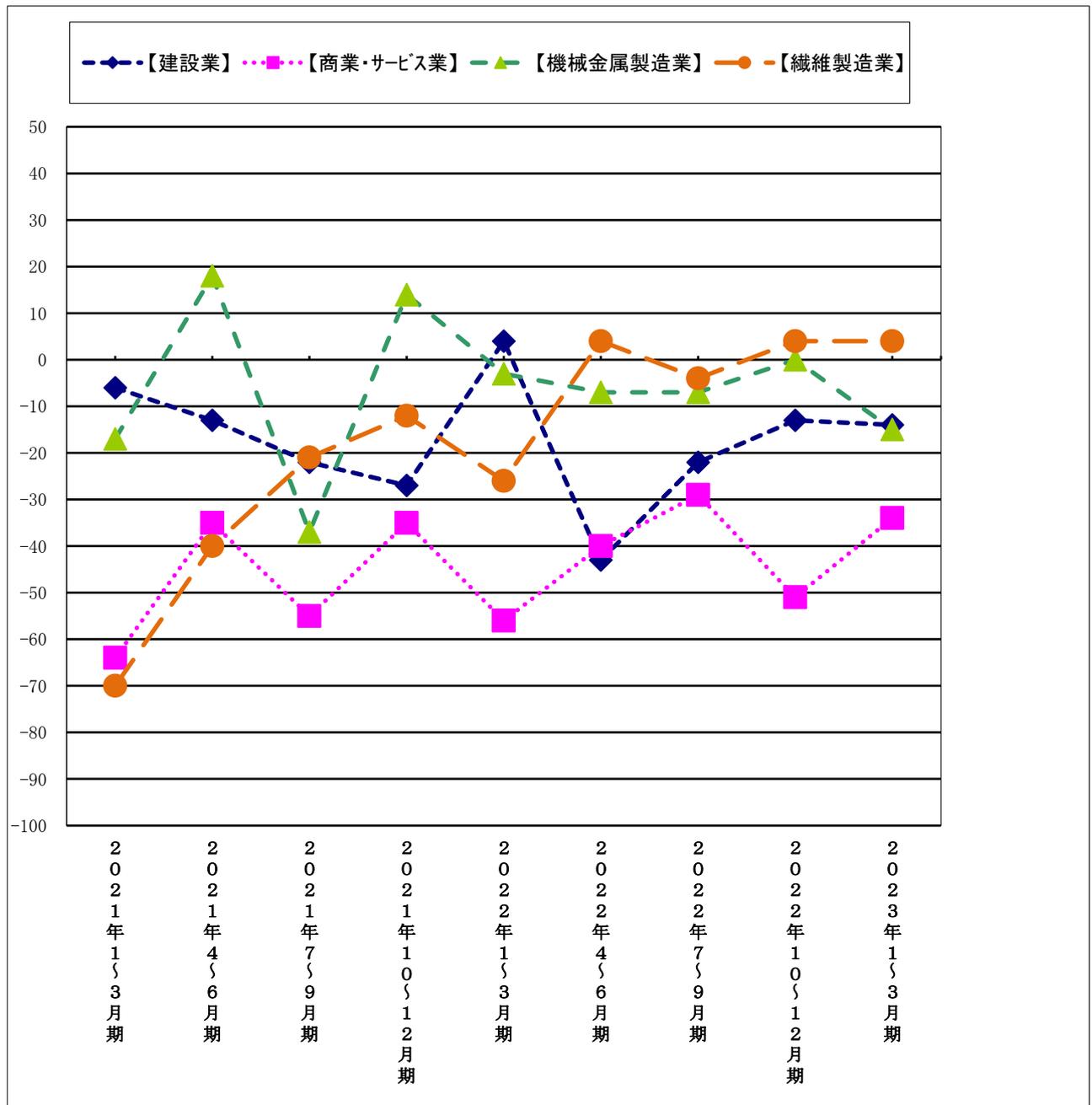
【経営上の問題点】

経営上の問題点としては、**建設業**では「材料価格の上昇」（23.2%）「材料の入手難」（12.5%）、**商業・サービス業**では「材料等仕入単価の上昇」（19.7%）「需要の停滞」（12.7%）、**機械金属製造業**では「原材料価格の上昇」（19.8%）「製品単価の低下・上昇難」（14.3%）、**繊維製造業**では「原材料価格の上昇」（29.0%）「需要の停滞」（14.5%）が上位となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2021年1～3月期	-6	-64	-17	-70
2021年4～6月期	-13	-35	18	-40
2021年7～9月期	-22	-55	-37	-21
2021年10～12月期	-27	-35	14	-12
2022年1～3月期	4	-56	-3	-26
2022年4～6月期	-43	-40	-7	4
2022年7～9月期	-22	-29	-7	-4
2022年10～12月期	-13	-51	0	4
2023年1～3月期	-14	-34	-15	4

[2021年1～3月期] から [2023年1～3月期]



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-14**。前期比は-1、前年同期比では-18ポイントとなった。
業種別では**建築・大工業〔±0〕、土木業〔-50〕、管工事業〔±0〕、鉄骨・鉄筋業〔±0〕、電気工事業〔-20〕、その他〔-20〕**ポイントとなった。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-5**。前期比+18、前年同期比では+5ポイントとなっている。

【商業・サービス業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-34**。前期比は+17、前年同期比では+22ポイントとなった。
業種別では、**卸売業〔+33〕、小売業〔-68〕、飲食業〔-25〕、サービス業では〔±0〕**ポイントとなった。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-32**。前期比+2、前年同期比では±0ポイントとなっている。

【機械金属製造業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-15**。前期比では-15、前年同期比では-12ポイントとなった。
業種別では、**鉄鋼業〔-100〕、非鉄金属業〔±0〕、金属製品業〔-8〕、一般機械器具業〔-33〕、電気機械器具業〔+100〕、輸送用機械器具業〔±0〕、精密機械器具業〔±0〕、プラスチック製造業〔±0〕、その他〔-67〕**ポイントとなった。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-24**。前期比-42、前年同期比-40ポイントとなっている。

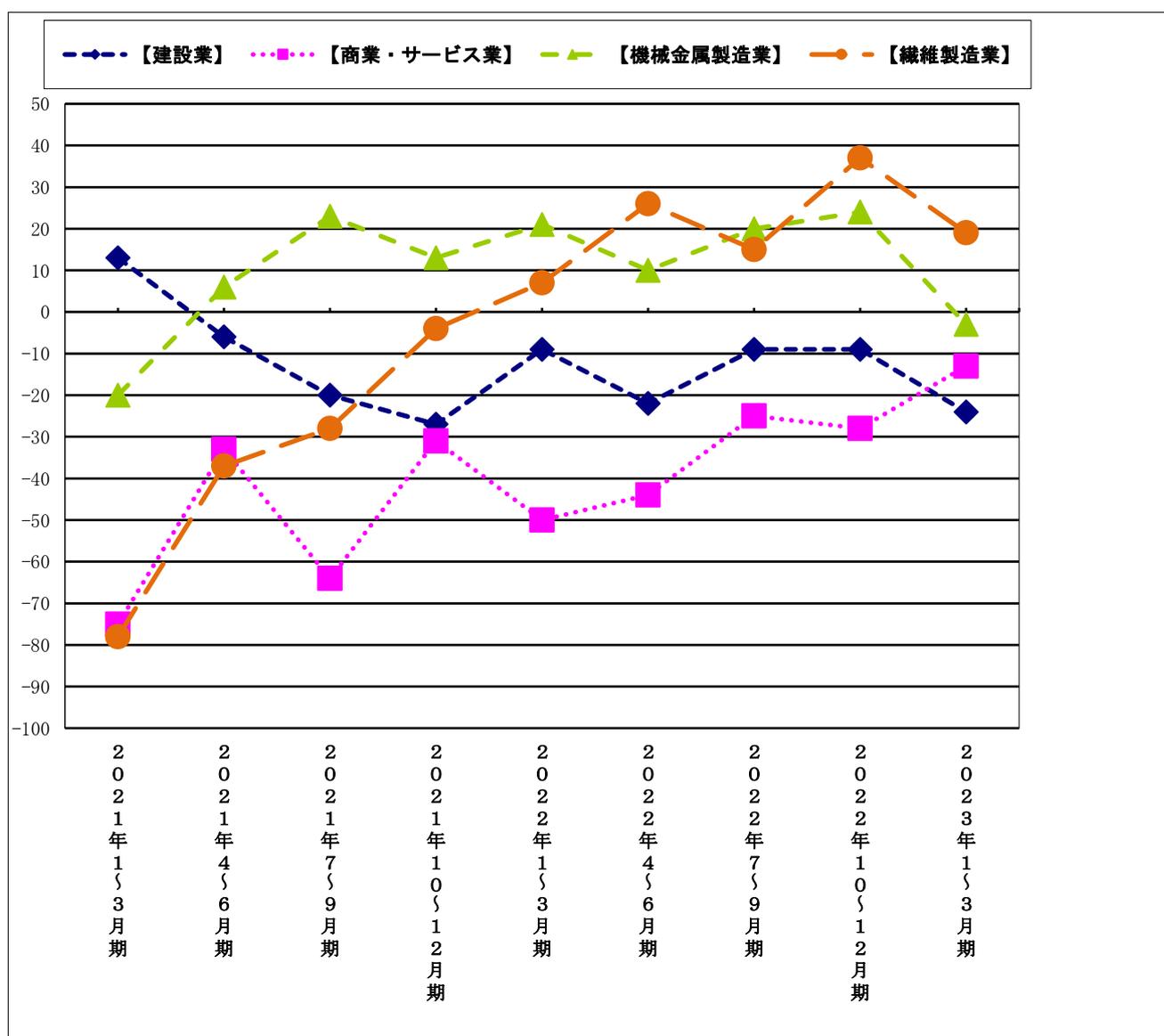
【繊維製造業】

- 今期業況 **今期の業況DIは+4**。前期比では±0、前年同期比では-26ポイントとなった。
業種別では、**織物業〔±0〕、染色整理業〔±0〕、ニット・メリヤス業〔-50〕、レース業〔-100〕、縫製業〔+100〕、刺繍業〔+40〕**ポイントとなった。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは+16**。前期比+21、前年同期比では+48ポイントとなっている。

売上額（完成工事額）DIの推移

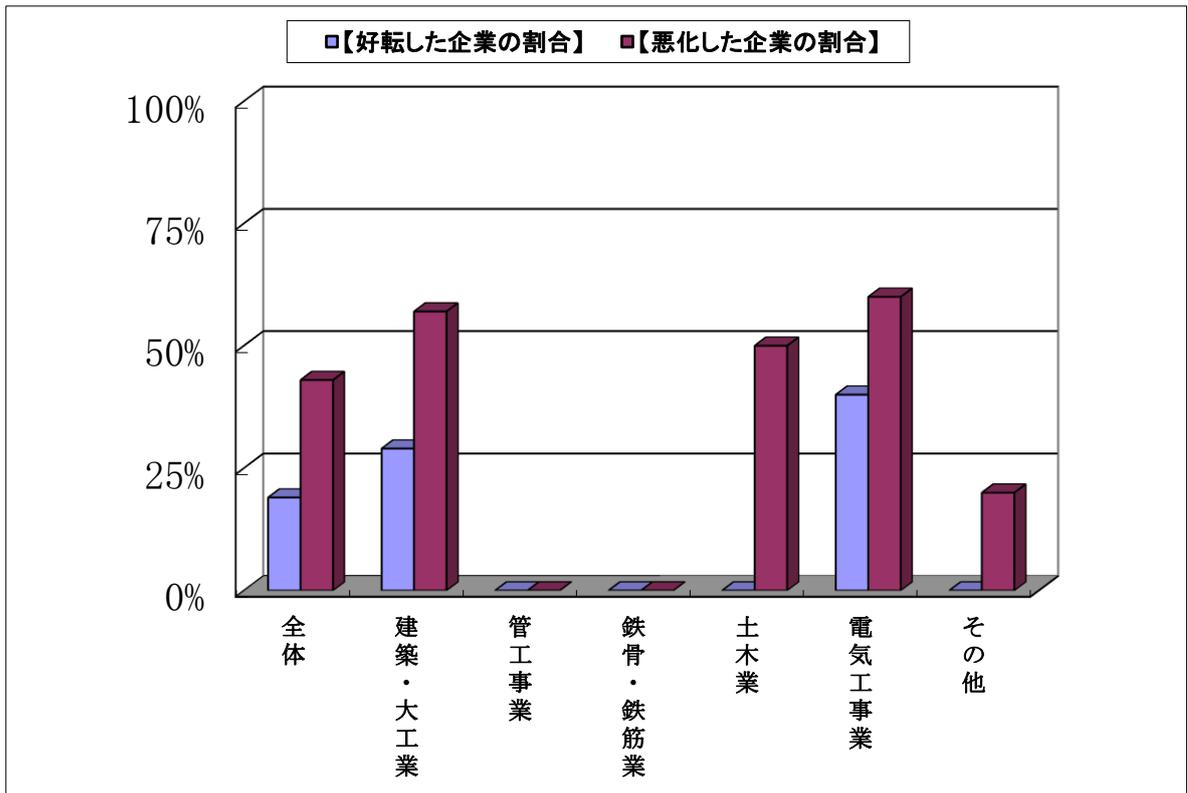
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2021年1～3月期	13	-75	-20	-78
2021年4～6月期	-6	-33	6	-37
2021年7～9月期	-20	-64	23	-28
2021年10～12月期	-27	-31	13	-4
2022年1～3月期	-9	-50	21	7
2022年4～6月期	-22	-44	10	26
2022年7～9月期	-9	-25	20	15
2022年10～12月期	-9	-28	24	37
2023年1～3月期	-24	-13	-3	19

[2021年1～3月期] から [2023年1～3月期]

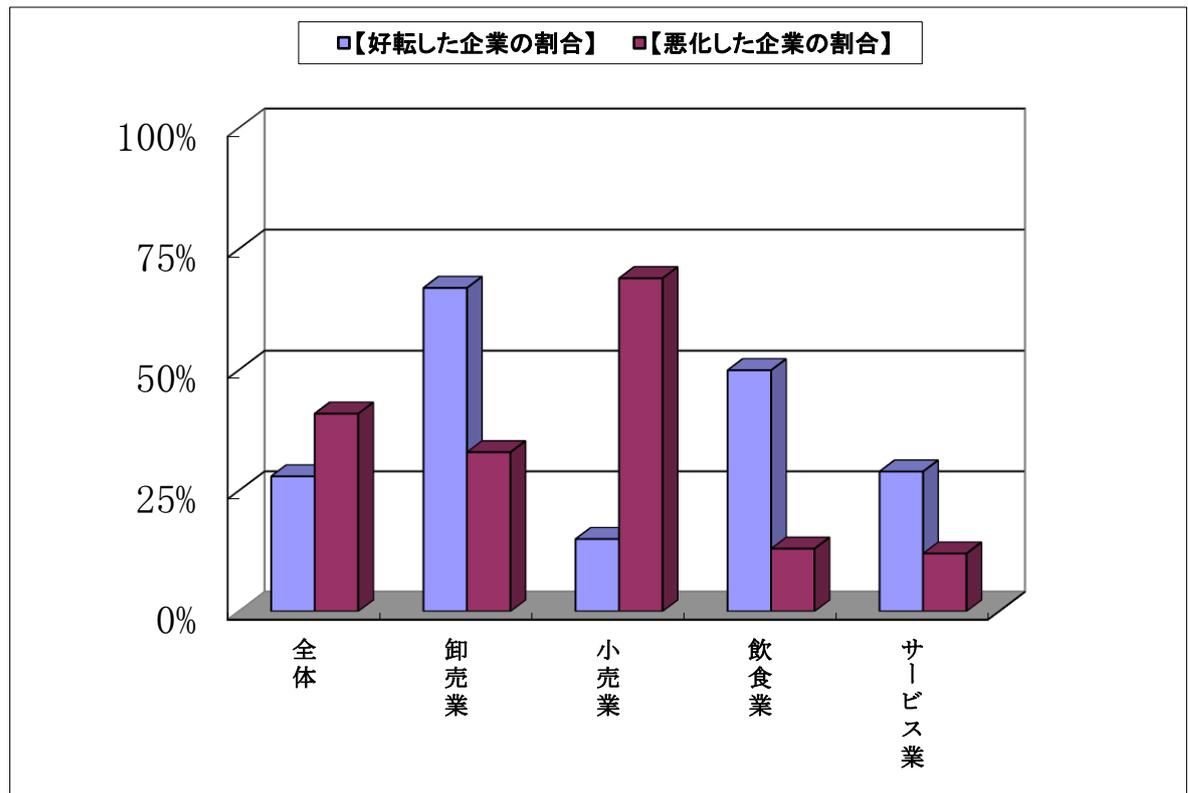


業種別売上額（完成工事額）の状況〈前年同期比〉

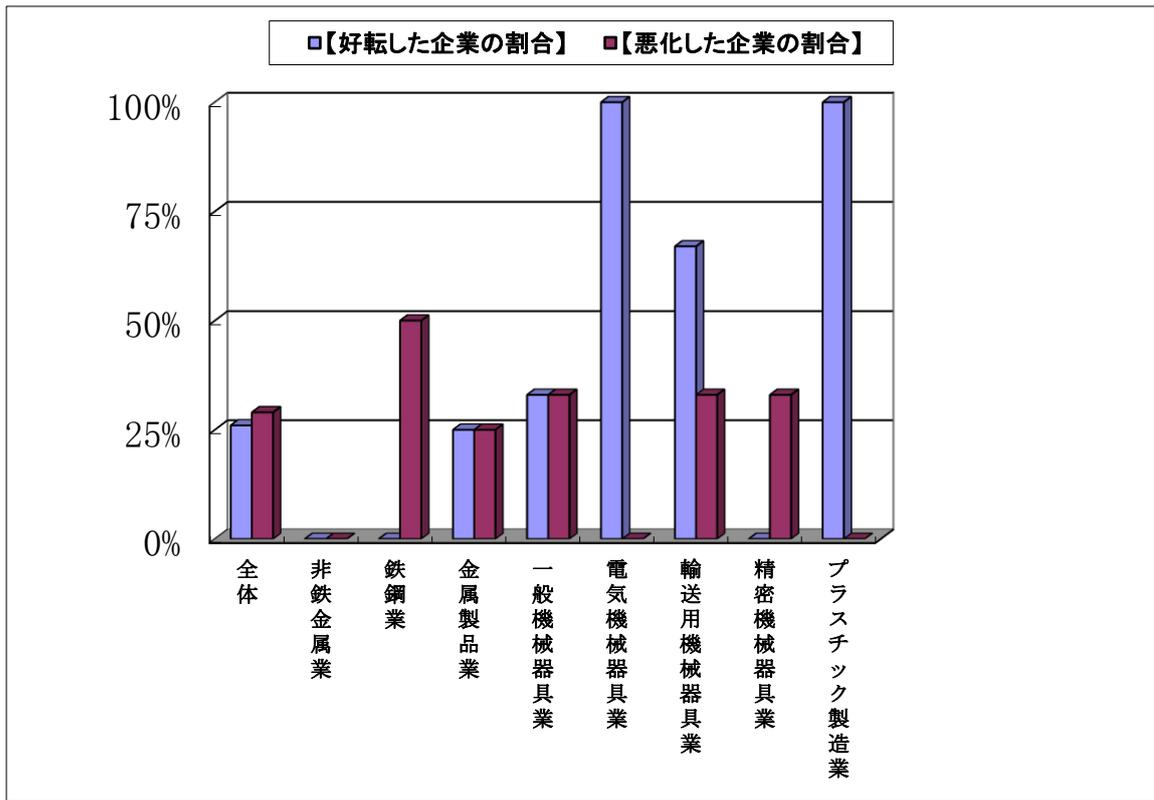
【建設業】



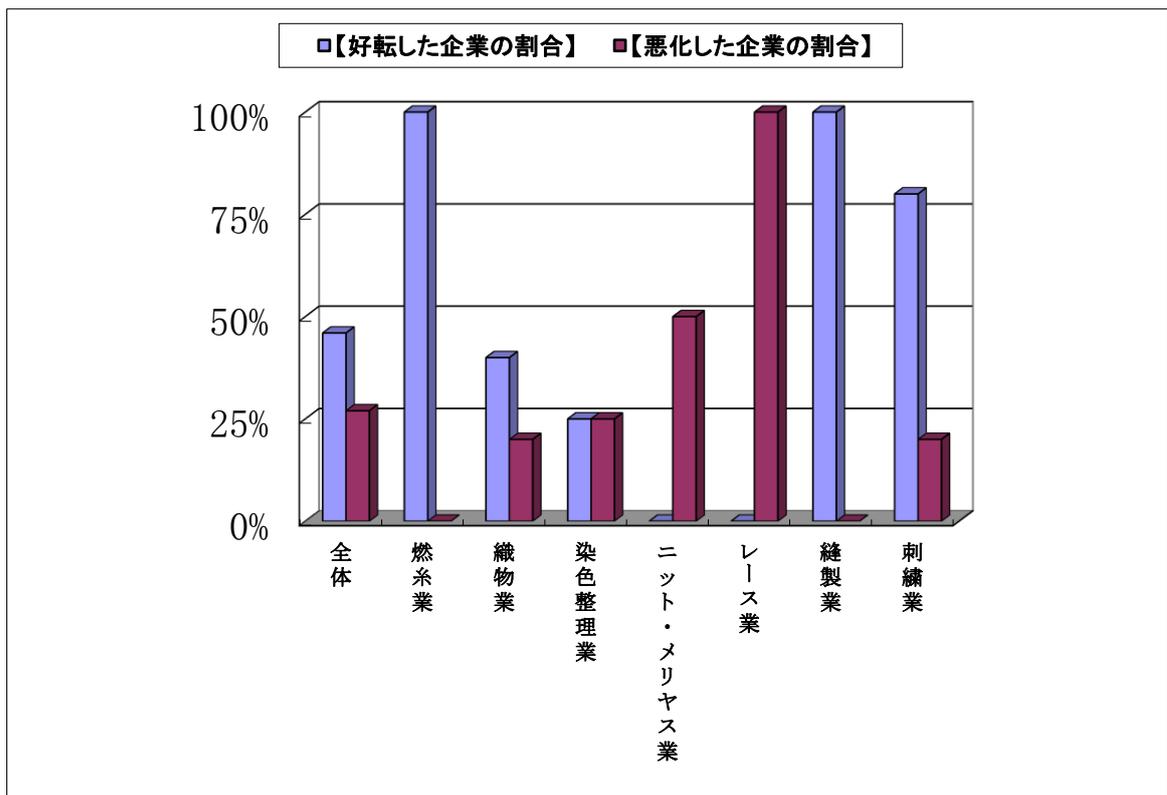
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



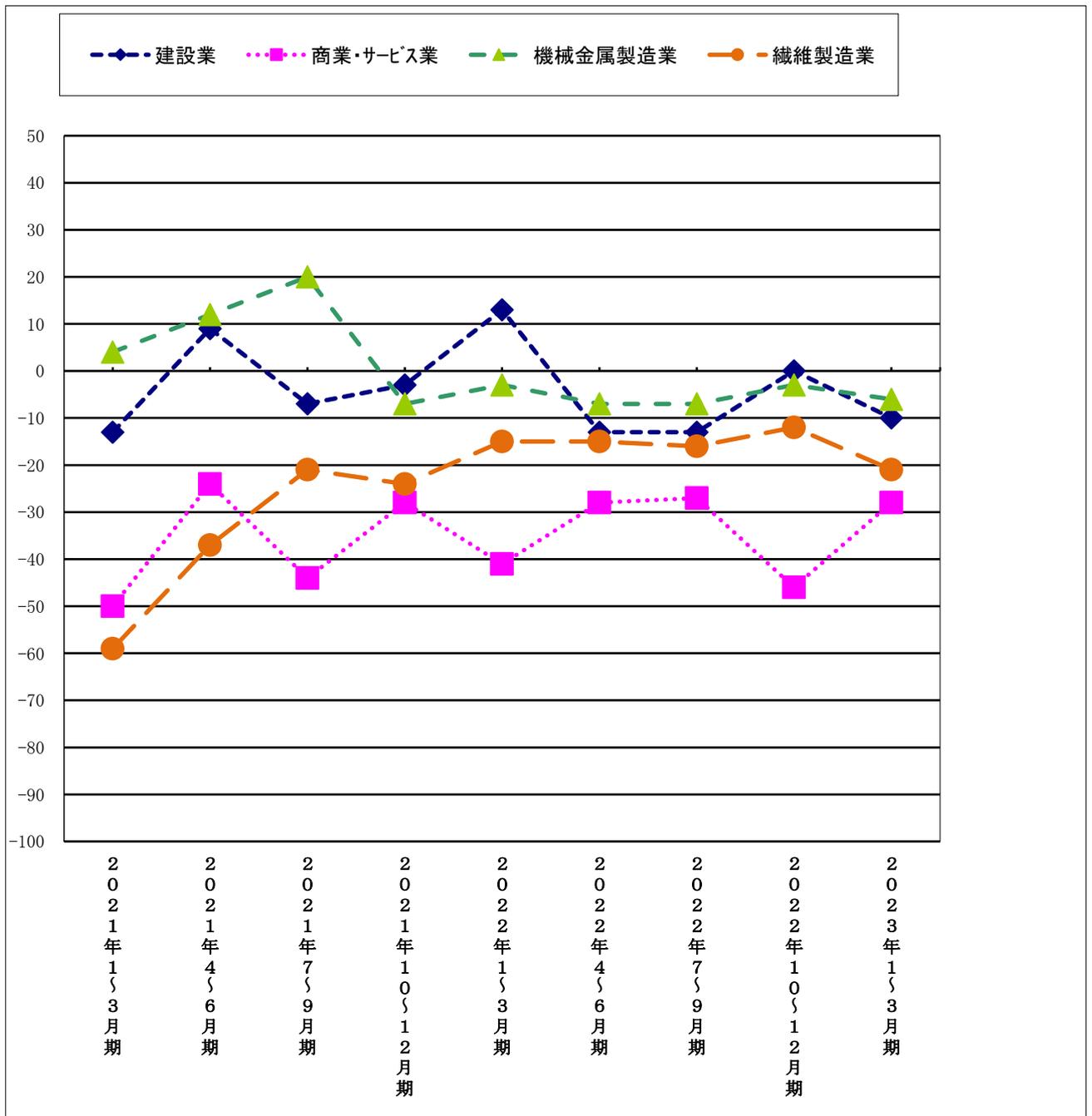
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
2021年1～3月期	-13	-50	4	-59
2021年4～6月期	9	-24	12	-37
2021年7～9月期	-7	-44	20	-21
2021年10～12月期	-3	-28	-7	-24
2022年1～3月期	13	-41	-3	-15
2022年4～6月期	-13	-28	-7	-15
2022年7～9月期	-13	-27	-7	-16
2022年10～12月期	0	-46	-3	-12
2023年1～3月期	-10	-28	-6	-21

[2021年1～3月期] から [2023年1～3月期]



今期直面している経営上の問題点

	1位(%)	2位(%)	3位(%)	4位(%)	5位(%)
建設業	材料価格の上昇 23.2	材料の入手難 12.5	民間需要の停滞 10.7	熟練技術者の確保難 8.9	従業員の確保難 8.9
前期	1位 23.3	5位 6.7	2位 16.7	4位 8.3	3位 15.0
前年同期	1位 20.0	2位 16.7	3位 15.0	5位 8.3	4位 13.3
商業・サービス業	材料等仕入単価の上昇 19.7	需要の停滞 12.7	消費者ニーズの変化への対応 12.7	人件費の増加 11.3	従業員の確保難 9.9
前期	1位 16.2	2位 14.3	3位 11.7	7位 5.8	4位 8.4
前年同期	1位 16.5	1位 16.5	3位 14.6	5位 6.1	5位 6.1
機械金属製造業	原材料価格の上昇 19.8	製品単価の低下・上昇難 14.3	従業員の確保難 13.2	原材料費・人件費以外の経費の増加 11.0	需要の停滞 9.9
前期	1位 18.4	5位 9.2	2位 14.3	3位 13.3	4位 12.2
前年同期	1位 23.3	2位 11.6	2位 11.6	7位 5.8	4位 9.3
繊維工業製造業	原材料価格の上昇 29.0	需要の停滞 14.5	原材料費・人件費以外の経費の増加 13.0	製品単価の低下・上昇難 8.7	生産設備の不足・老朽化 7.2
前期	2位 17.6	1位 20.3	10位 2.7	3位 12.2	4位 10.8
前年同期	1位 21.3	1位 21.3	8位 4.0	3位 12.0	5位 6.7

事業所からのコメント（直面している問題点など）

〔建設業〕

- ・新卒及び中途採用が困難
- ・売価の低下

〔商業・サービス業〕

- ・電気代上昇で商品も卸値が上昇して厳しい状況下にある。コロナは段々と少なくなっている
ので、今年の桐生八木節まつりは経済活性化のために実施していければと思う
- ・売上、経常利益とも前年を上回るが以前として家族葬が多く、増収を続けるのは困難な状況
下である
- ・電気料金を中心とした水道光熱費が利益を圧迫してきている
- ・従業員の高齢化で減少した分の従業員の確保が出来ず外注依存率が高くなり、利益減少と今
後の経営に不安がある
- ・街に人がいない、桐生に住む人（特に40～50代）や活力ある人が少ない。街に出て街歩
きの楽しさを知っていただきたい
- ・マスク自由化や5類へ移行することである程度の売上増が見込める。しかしコロナ前の水準
には戻らないと思う。コロナ後の新戦略がないと生き残れないと思う。今後コロナ融資の返
済が始まり危機的な会社が多くなると思う
- ・桐生の人口を12万人程度まで増加してもらいたい

〔機械金属関連業〕

- ・原材料価格上昇分は客先より値上げ承認されるが、電気代他経費増加分が認めていただけな
い苦しい展開
- ・部品不足の影響で受注の停滞、短納期対応。新規受注のため人材を確保しておきたいが、集
まらない
- ・自動車の場合半導体部品の不足で減産になっている。あと2年はこのような事が多いと思う

〔繊維工業〕

- ・工場の動力としての電気代金の負担が大きくなっている。これにともない外注加工代等が圧
迫してくると思う。給与アップへの圧力負担となる
- ・製造工程の部品がない。設備が古いため物が作れなくなっている